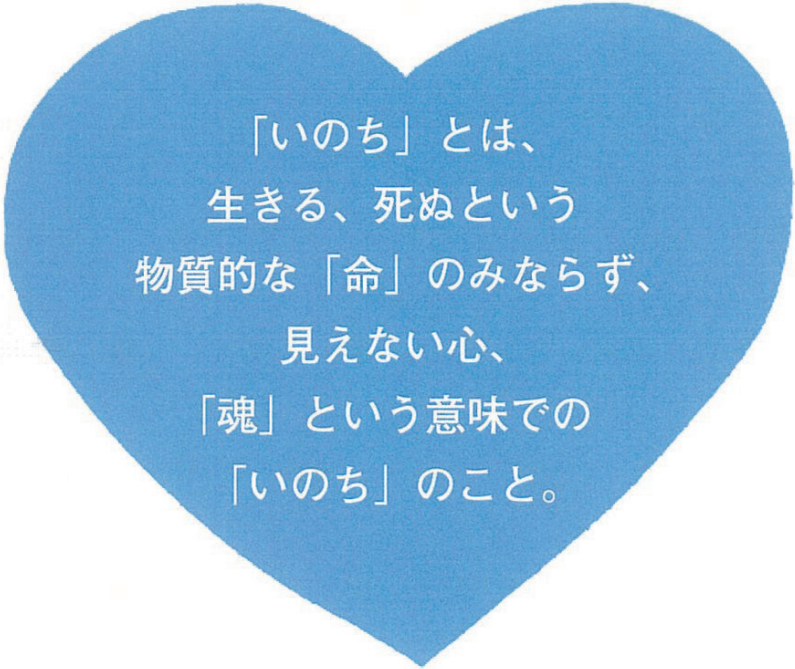


①

日本がこれから
志すべきは、
世界が直面する
これらの課題に
先頭に立って取り組む
「**世界一のいのちの大国**」。
それは日本人が
幸せになり、
世界から尊敬される
第一歩だ。



「いのち」とは、
生きる、死ぬという
物質的な「命」のみならず、
見えない心、
「魂」という意味での
「いのち」のこと。

②

日本は、
 「いのちの大国」を目指す素質十分。
 日本人ほど、
 古くから自然と人間の共生を、
 宗教観やライフスタイルに
 取り込んでいる国民はないから。
 神道の神は「八百万の神」で、
 どんなものにも「いのち」が
 宿るとみなしている。

食材を無駄にせず、
 生かしきる海外での日本食ブームや
 「もったいない」という
 言葉の世界的な浸透は、
 日本人の伝統的な価値観が
 評価されている証拠。
 自信を持って世界への貢献を
 考えていこう。



③

日本の伝統的な営みや生き方が

凝縮したものとして、

天皇陛下と皇室の存在には

大きな意味がある。

天皇陛下の年中行事はすべて

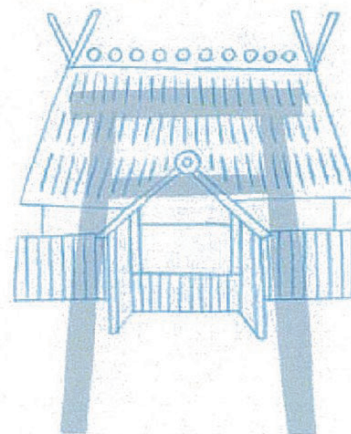
五穀豊穡と国民の幸せを願う祈り。

その一つひとつに隠れた

自然への畏怖の念にこそ、

世界が直面する問題を

解決するヒントがある。

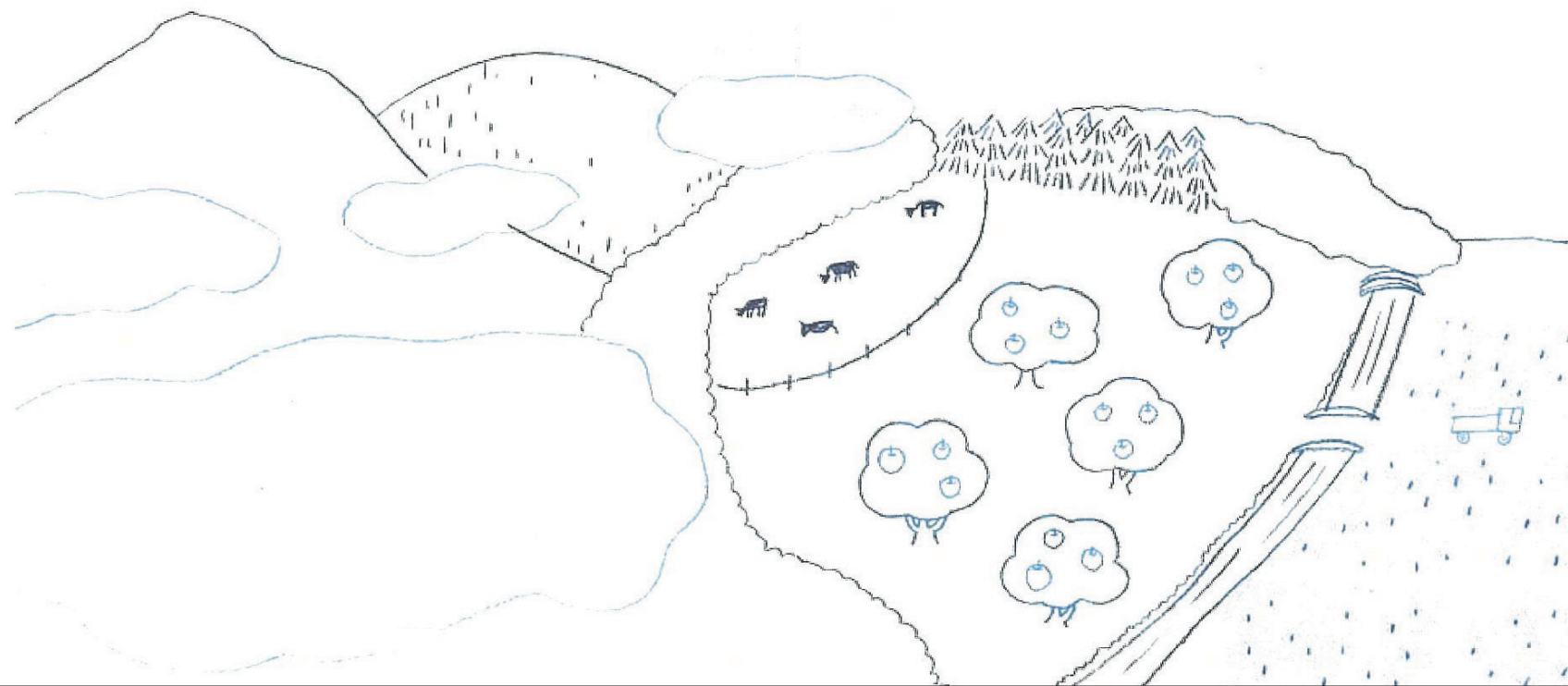


④

農業も、「いのちの大国」づくりでは
重要な役割がある。

そのために日本の農業を4つに分類して、
新たに「先進農業」として再編していこう。

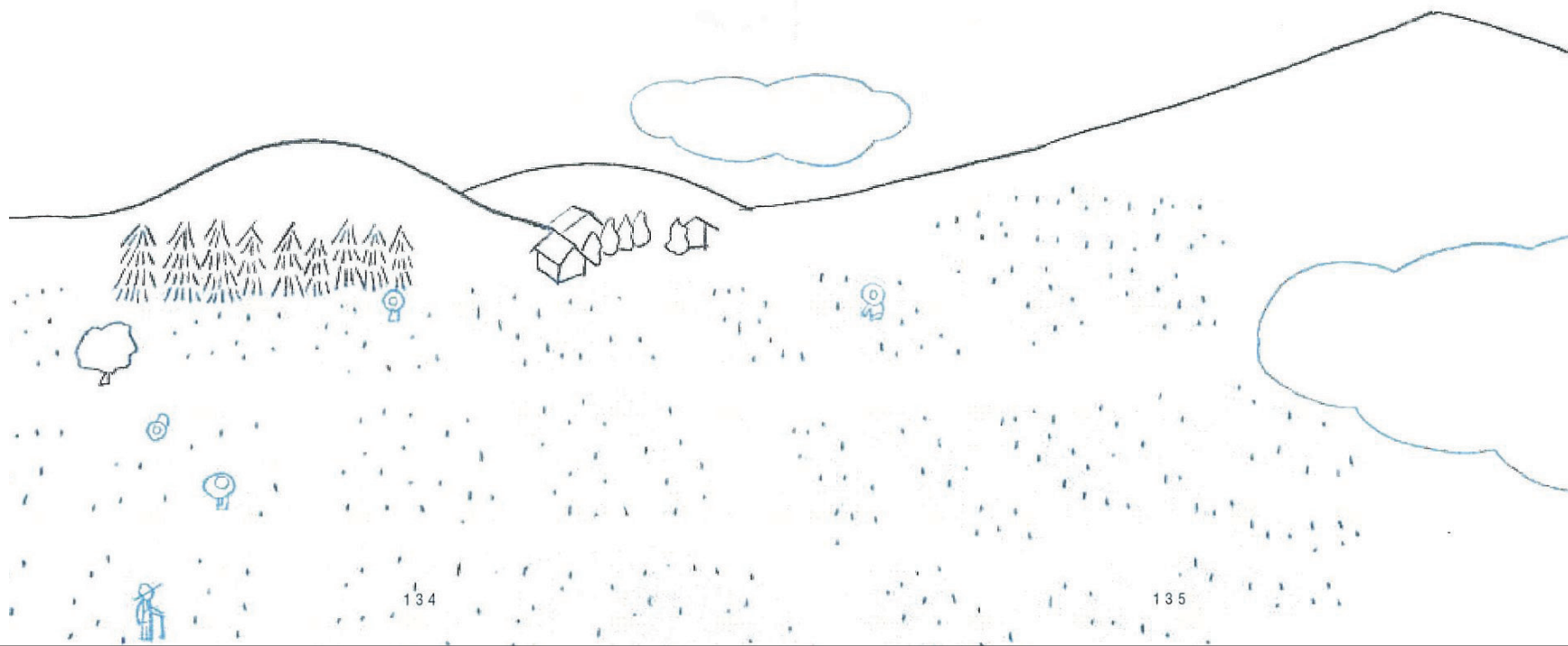
1つ目は、日本人の長年の知恵を
生かした競争力のある農業で、
海外への農作物や技術の輸出を行う
「成長農業」。



⑤

2つ目は高齢者が営む「福祉農業」。
人は最後は自然に回帰するものだし、
農作業で体を動かすと
高齢者は元気になる。

3つ目は水源や国土の保全に役立つ
「環境農業」。
山間地の段々畑には
価格競争力はないけれど、
目に見えないいのちを守る役割がある。



⑥

そして最後は「教育農業」。

農業はいのちの尊さを、

子供に教える重要な機会でもある。

いまでも体験学習の一環として

育てた鶏や豚を食べることで、

いのちの大切さを学ぶ教育もある。

何気なく口にする食べ物もすべていのちあるもの。

そう思えたら子供は食べ物だけではなく、

他人もモノのいのちも大事にするだろう。

⑦

自然と共生する日本 人の知恵を生かし、
農業、教育、環境をリンク させながら発展させて、
世界に誇れる **「いのちの大国」**を
実現して いこう。

